FITTILLIAN REVIEW

月刊東ア	ジアレビュー 2012年10月号/No.189 発	行: 頁	東アシ	ア総合研究	所
【視点】	APEC首脳会議の成果と日ロ経済協力	望。	月喜	市	1
【論評】	韓国大統領選挙の行方を占う	姜	英	之	3
【コラム】	光の街 延吉と東北アジアの明日 延辺朝鮮族自治州訪問記	堤	_	直	5
【見聞記】	「PIGS」呼称は不当? 南欧のんびり生活	小里	予田明	月広	8
【案内】	第13回 東アジア国際シンポジウム テーマ:朝鮮半島の非核化と日朝関係の展望と課題	編	集	部	10
【書評】	「北朝鮮と中国」五味洋治著	編	集	部	11
【編集後記】	国家戦略なき政策論を思う 「運命」の不思議			今	



APEC首脳会議の成果と 日ロ経済協力

望月 喜市 • Mochizuki Kiichi

北海道大学名誉教授(ロシア経済) du7k-mczk@asahi-net.or.jp

ロシアが主催した第24回アジア太平洋経済協力 会議 (APEC) 首脳会議が、9月9日に大きな成果を 上げて閉幕した。9月に入り、2-3日最終高級実務者 会合 (CSOM)、5-6日閣僚会議 (AMM)、8-9首脳 会議 (AELM) が開かれ、この間各国要人の会談が 活発に行われた。

首脳会議の主要な合意事項は、環境物品の関税 引き下げ(再生エネや省エネ物品の貿易拡大)、食 料安全保障の強化(食料の生産と貿易の拡大で食 料価格の高騰を防止する)、エネルギーの安全保障 (天然ガスなどの投資と貿易の拡大)、保護主義の 抑止(各国の貿易制限措置を自粛)だった。

❖ 開催を機に大幅に整備・改善されたインフラ

APEC会場は、ウラジオストク市の南方にあるルースキー島(50万㎡)に作られた。同市の北側に空港があり、これと会議場を結ぶ交通ネットを新設・整備する必要があった。当初、ゼロから会場を作るよりサンクトペテルブルク市などで実施したらどうかという意見や、工事が間に合わない心配もあったが、APEC誘致をロシア極東発展の起爆剤にしたいプーチン大統領の断固とした決心が、ルースキー島開催

を決定づけた。

空港と会場を結ぶ、高速自動車道路のために、3 つの橋が急遽構築された。そのトップは、今年7月に 完成したウラジオストクと会場のルースキー島を結ぶ 壮大な海上大橋だ。高さ320mの2本の主塔間の距 離は1104m、斜張橋としては世界一の規模である。 その他アムール大橋や、金角湾横断橋も新設された。 空港特急で空港からウラジオストク中心まで行く列車 も毎時運転された。空港は滑走路を延ばし旅客ター ミナル等を新設。会議のための新設建造物は、国際 会議センターと国際プレスセンターなどで、これらの 建物は会議終了後、極東連邦大学の施設として利用 される。その他、市内の公共インフラ(下水道、浄化 施設など)工事、地域の電力網、港湾インフラ整備な どが行われた。こうした大工事をわずか4年足らずの 突貫工事で完成させたことは驚きだ。関連工事の総 投資額は、当初予算を大幅に超え約6620億ルーブル (約1兆6000億円)に膨れ上がった。

❖ 人材育成の役割を担う極東連邦大学

宴のあとの反動的冷え込みの防止役として期待されているのが、会議関係施設に移転してくる極東連邦大学だ。政府からの助成金を大学が自由に設備・教員の給与・質の向上などに配分できる特権をもつ。学生数約6万2500人、地元の底力を上げ最新技術を集め、アジア太平洋地域との協力を促すという重要課題が与えられている。教育の国際化をモットーに外国人留学生と講師の誘致に努める。日本の「コマツ」社が、極東連邦大内に建機の操作を学生に教えるラボラトリの設置を極東連邦大学に提案した。

❖ ヴォストーチヌイ宇宙基地建設

カザフスタンのバイコヌール宇宙基地に代わり、アムール州の閉鎖都市ウグレゴルスクとスヴォボードヌイの一帯に新しい打ち上げ基地を建設する。2012年に着工、2015年ころにロケット、2018年ころから有人宇宙船の打ち上げを目指す。事業費は3600億ルーブル(約1兆円)。広さは約700km²。発射施設のほか、ロケット燃料を製造する液体水素工場や物資を輸送する空港、さらに住宅や病院など2万5000人規模の都市を作る。現在は軍人とその家族約6000人が暮らしている。

❖ カジノゾーンの建設

カジノゾーン「プリモーリエ」の建設(投資額17.6億条、総面積は620h)は公営企業「ナーシ・ドーム・プリモーリエ(我々の家沿海)」が経営主体となる。地方当局は、アジア太平洋地域から観光客の来訪と税収入で地方収入の12億ルーブル増加や、4500人の雇用増を見込んでいる。16の高級ホテル(カジノ付き)と、ヨットクラブ、65隻規模の船着場、アルペンスキー場、通商管理業務の事務センターを作る。その他、空港から10分程度の幹線道路付近に国際サーキット場を作る計画も動き出している。

❖ 東シベリア・極東に展開する日本企業

会場用の発電機には、川崎重工製のガスタービン発電機が採用された。金角湾横断大橋の橋脚には「会沢高圧コンクリート」(本社北海道)が特殊コンクリートを納入。世界最大級のパルプ工場建設の受注(丸紅)、ウラジオストクのコジミノ港にLNG基地の建設(ガスプロムに加え伊藤忠商事や石油資源開発が参加)、ウラジオストク近郊の自動車大手ソレルスとの合弁生産(マツダ)、ソレルスと三井物産の合弁工場に生産を委託(トヨタ)、東芝はロシアの発電タービン製造大手と合弁会社設立した。国際石油開発帝石と三井物産がロスネフチと共同で、イルクーツクの油田開発を検討。油田埋蔵量は少なくとも、日本の需要の2~3年分にあたる20億~30億バレルと見られる。

ロシア対外経済銀行は2011年11月、総額700 億R.の極東バイカル地域発展基金を創設した。官民パートナシップ (PPP) センターがマネージする。これを活用して官・民・外資の共同出資 (2015年まで最大で3500億R.:約1兆円)で、極東地域の開発を本格化させる。大型プロジェクトには、南ヤクート総合発展計画 (石炭、ウラン鉱石の開発)、観光クラスター発展計画 (空港整備と保養施設:カムチャッカ)、漁業コンプレックス (養殖センターと水産加工:サハリン)、大豆クラスター発展計画 (ユダヤ州)、農業生産発展計画 (アムール州)、石油ガス化学工業発展計画 (イルクーツク州) など6件。資金と技術をもつパートナーとして、日本に熱い期待を寄せている。

参考:http://vladiostok2012.com その他新聞・雑誌など



韓国大統領選挙の行方を占う

姜 英之 ● Kang Young ji 東アジア総合研究所 理事長

朴槿恵候補には「過去史問題」が重荷

来る12月の韓国大統領選挙で無党派層から広範な支持を集めている安哲秀(アン・チョルス)ソウル大融合科学技術大学院長(50)が9月19日、ソウルで記者会見して無所属での立候補を表明した。これで、すでに出馬が決まっている与党、セヌリ党公認の朴槿恵(パク・クネ)元党代表、それに最大野党、民主統合党の公認候補、文在寅(ムン・ジェイン)元盧武鉉大統領秘書室長の3人が次期大統領候補として出そろったことになり、今後約3カ月間、韓国は選挙戦が一気に盛り上がり、熱い政治の季節を迎える。

果たして、この3人のうち、誰が次期大統領に 選出されるだろうか。投票日直前まで勝負の行方 が分からない接戦が予想され、最後のドンでん返 しもあり得るスリルに満ちた政治ゲームになりそ うだ。

1~2年前からの世論調査では、次期大統領候補者のうち朴槿恵氏が常に40%前後の支持率をキープしてきた。他候補はみな支持率一桁で朴槿恵氏がダントツの勢いであったので、大統領に選出される可能性は最も高いとみられていた。しかし、今年に入って、李明博大統領の失政続きで国民の与党に対する批判が高まり、李政権のレームダック現象が強まる中、与党、セヌリ党の候補、朴槿恵氏の支持率にも陰りが見え始めた。朴槿恵氏と安哲秀氏の一騎打ち対決となる場合の想定でも当初は朴槿恵氏が勝っていたが、その後の世論調査では安哲秀氏が追い上げて2~3%の僅差に迫り、時には安哲秀氏が優位に立つことも

あった。19日の安哲秀氏の記者会見当日、韓国の民間世論調査機関が発表した支持率は朴槿恵氏38.6%、文在寅氏26.1%、安哲秀氏22.5%であった。

今のところ、朴槿恵氏が有利な情勢にあるのは間違いないが、朴氏には障害も多い。彼女は1960~70年代、韓国の近代化、経済発展をもたらした朴正熙元大統領の長女であり、当時からファーストレディの役割を担い、父に従って外遊の経験もした。北朝鮮と対峙する韓国で女性が軍の統帥権を持つのはどうかという懸念もあったが、数年前に遭った傷害事件での毅然とした態度、今年4月の総選挙で見せた政治手腕など、国民の間で女性大統領としての不安感はかなり払拭されたと言える。経済先進化を果たした韓国で、女性大統領が出現することは政治の民主化、先進化を象徴する意味もあり、むしろ女性大統領待望論も社会の底流にはあるようだ。

今後の大きな課題は「過去史問題」である。父の朴正熙大統領の時代には、経済発展は遂げたものの、いわゆる「開発独裁」の下で過酷な人権弾圧が行われたのも事実であり、その被害者たちと在野民主化勢力は今も、当時の政治弾圧を告発し続けている。世論もこの問題を大きく取り上げており、父である朴正熙元大統領の威光を受けて政治世界に登場した朴槿恵氏にとって、この問題の評価いかんによっては支持率に大きな影響が出てくる。

次に経済政策である。5年前、李明博氏が大統領に当選したのは、革新政権の盧武鉉大統領が、 庶民政治を標榜したものの、経済面の実績は芳し くなく若者の失業率が増大、景気不振が続いた からである。結局、国民は、財閥企業出身の李 明博氏に経済再生の期待をかけたわけである。 しかし、実際はどうか。7%成長公約はリーマン ショックによる世界的経的不況で実現できなかっ たのはやむをえないとしても、企業フレンドリー な政策で財閥企業は好業績を挙げても中小企業は 不振、貧富格差は拡大するばかりである。その 上、李大統領の親族、側近などの賄賂横行で逮捕 者続出とあっては、国民の与党への失望は当然で ある。その与党の大統領候補である朴槿恵氏も、 どちらかと言えば大企業寄りと見られており、か つて財閥企業と癒着していた朴正煕政権の評価と も重なって、朴槿恵氏の経済政策も国民の厳しい 審判を浴びるほかない。この面に関しては、経済 政策のブレーンである党院内総務の李漢久氏が経 済学者であるだけに、そのアドバイスに従い早く から「福祉重視」を打ち出しているが、それがど う具体化されていくのか、まだ見えていない。 「福祉先進国論」を唱えているが、景気低迷の 中、庶民の生活困窮は待ったなしの課題であり、 保守富裕層に基盤を置く与党の立場にあって、労 働者、農民、中小企業など、庶民経済を実現する 政治力量を朴槿恵氏に期待するには少し荷が重い と言わざるを得ない。

対北朝鮮政策においては、李明博政権のようなかたくなな強硬一辺倒の政策を修正し、圧力と対話交流を並行して進めるとしており、妥当な方向性を明示している。最近の世論調査では、韓国哨戒艦沈没、延坪島攻撃事件にもかかわらず、対北政策では和解・協力を進めるべきとの意見が大多数を占めており、朴槿恵氏もこうした国民意識を十分反映した対北政策をとろうとしている点は評価されよう。

野党候補一本化が当選の鍵

他方、野党公認候補の文在寅氏は「民主化闘争 の弁護士」として知られ、盧武鉉前政権では大統 領秘書室長など政府要職を歴任してきた。党内予備選では金大中元大統領、盧武鉉前大統領の両民主化政権の後継をアピールし、党公認候補が決まった16日の演説では「金、盧両大統領の献身と犠牲を踏襲し、新しい民主政府の時代を開く先頭に立つ」と訴えた。金大中大統領、盧武鉉大統領と同様、庶民の生活重視、財閥主体の経済是正、対北朝鮮融和政策を踏襲するとみられるが、国民は金大中大統領、盧武鉉大統領の革新政策が掲げた公約と現実が一致しなかった点を学習しており、よほどのリーダーシップ発揮がない限り、政権運営が難しいのではないかと予測されている。

安哲秀氏の登場は、既成政党の政治に飽き足ら ない圧倒的多数の国民の気分を反映しており、日 本の「橋下ブーム」に通じるものがある。彼は、 若い世代相手の公開トークショー「青春コンサー ト」で人気を博し、新しい時代感覚を持った新政 治指導者として国民が待望した人物である。いま だに具体的政策を披露していないが、貧富格差解 消、対北朝鮮融和政策について語っており、政策 的には文在寅氏と近いといえる。ただ無党派層の 気分に乗って出てきただけに、政治家としての力 量は未知数。政党政治の基盤が根付いている韓国 であるから、いずれは、野党陣営入りし、新党結 成へと進む可能性が強い。文在寅氏が安哲秀氏を 相手に野党候補一本化に向けて動き出す構えであ る。そうしないと朴槿恵氏に漁夫の利を与えてし まい、共倒れになるからだ。しかし、安氏と文氏 の政治的思惑が絡み合って一本化は容易ではなか ろう。一本化が成れば、「変化」を希求する韓国 の国民気質からすると、野党候補の勝利となろう。

日本との領有権問題、北朝鮮問題など、東アジア激動時代にあって、次期韓国大統領はかつてなく重い責務を担うことになる。それだけに、誰が当選することになるのかを関心の中心に据えながら、韓国政治の動向から当分眼が離せない状況が続きそうだ。



マム 光の街 延吉と東北アジアの明日

延辺朝鮮族自治州訪問記

堤 一直●Tsutsumi Kazunao

☆中国東北、光を放つ延吉

9月に筆者は中国の東北地方に位置する、吉林 省延辺朝鮮族自治州の州都延吉を調査、観光を兼 ねて訪れた。事前に、延吉に行くことを韓国人の 知人に話したところ、「中国と韓国が一緒になっ たようなところ」という答えが返ってきた。ガイ ドブックで見る限りでは、確かに中国語とハング ルが併記された看板が目立つ街のようである。い ずれにせよ、未だ訪れたことのない最果ての地に 筆者の期待は膨らんでいった。そして、実際に訪 れて見ると、建物の大きさ、歩道・車道の広さに 驚かされた。ちょうど、その頃は、外で唐辛子を 乾燥させる時期で、警察署の向かいの歩道まで 「真っ赤に」染まっていた。街や人の雰囲気は開 放感に溢れていた。

中国語・ハングル併記の看板も随所に見かけることができたが、看板にハングルが書かれているのは、延辺朝鮮族自治州ならではの情緒であった。朝鮮族とは以前の筆者コラムでも紹介したように、19世紀半ばから中華人民共和国建国までに朝鮮半島から中国東北部に移住したコリアンのことである。家庭と民族学校で朝鮮語、それ以外では中国語という二言語の環境で育ち、中等教育での日本語学習者も、中国の他民族と比べると多い。だが、近年は青島、北京、上海等中国沿岸都市部、そして韓国、日本、アメリカ等海外への移住が盛んで、自治州の朝鮮族人口は減少傾向にある。

だが、今年の自治州創立60周年は華やかに祝われた。朝鮮族は中国の少数民族の中でも漢族とともに激しい抗日戦争を戦った。多くの犠牲の上に自治州創立を認められたとも言える。その民族の矜持を示すかのように、節目の年の創立日、9月3日を前にして多くの建物には改修が施され、

外壁も塗り替えられていた。そして、当日の夜になると、ビル、アパート、公園、橋がそれぞれライトアップされ、赤青黄緑の光が輝きを放っていたのである。民族大学である延辺大学もライトアップされていたが、白人の若者が多いなと思ったら、ロシア人留学生たちであった。延吉駅からまっすぐ伸びる大通りにも、ロシア風の玉葱屋根を冠したビルが並んでいた。

「日本人」である私が、「ロシア風建物」が立ち並ぶ「中国の街」を「朝鮮族の知人」と談笑しながら歩いたことは、思い返して見れば不思議なひとときであった。多様性が日常に溶け込んでいる街で貴重な一週間を過ごしたのである。

なお、延吉に来る外国人と言えば、韓国人か口シア人が多く、日本人は少ないそうである。日本企業が中国の南方に多いことが原因だろう。また、延辺朝鮮族自治州も、延吉もまだまだ日本での知名度が低い。訪問前に、日本人の知人と話しをしたが『漢字で書くと「延」と「辺」なの?ずいぶん遠そうなところだね』と、その知人は驚いていた。開放的なコスモポリタンという側面が知られて、日本からの来訪者も増えればと思う。都市化が進んでいても、人々の心は温かい。今回



延吉駅前大通りの夜、ロシア風の建物とバス停が見える。 (2012年9月3日、筆者撮影)

も、現地の方々に豚、牛をはじめ名物犬肉、羊串肉、松茸までごちそうになった(中国の一人前は日本では間違いなく二人前以上に当たるので、食べ過ぎには十分ご注意を)中国人は情のある人が多いが、特に東北地方の人々はそうだと言われている。

インフラの面でも、老朽化していた延辺の朝陽 川空港が、数年以内に郊外に移転、新築される予 定である。北京から延吉までは航空機の直行便で 2時間強かかる。加えて、朝鮮族ネットの各種報 道(2012年9月29日時点確認)によれば、同じ く数年以内に吉林省の長春から自治州まで高速鉄 道を走らせる計画もあるそうである。現時点で、 北京から長春までは路線があるが、これが延吉に まで伸び、さらに図們を経て、琿春に至るのであ る。北京から延吉までの予定所要時間は約8時間 で、航空機直行便とは大きな差があるが、運賃を 空の便よりかなり安く設定し、そして安全性を重 視すれば有力な選択肢となるだろう。日本人ビジ ネスマンが、日本から長春まで直行便で飛べば、 そこから延吉まで高速鉄道を使って約2時間で行 くこともできる。延吉の西方に位置する安図、そ して図們では既に高架線の橋脚が姿を見せてい た。図們からは北朝鮮の鉄道と繋げる構想もある そうである。であるならば、いずれ、北京から延 吉を経て平壌まで、いやそれに止まらず、平壌か らソウル、釜山にまで高速鉄道が貫通するかもし れない。

☆北朝鮮が輝くその日は

ここで、延辺朝鮮族自治州が境を接する北朝鮮に話を移す。当然ながら、北朝鮮経済の今後は自治州の発展にも大きな影響を及ぼすからである。延吉を煌々と輝かせていたのは豊富な電力であるが、北朝鮮のそれにも注目して見ると、9月において幾つか気になる記事が散見される。まず、9月6日付労働新聞(以下、引用記事は全て9月29日時点確認)で金正恩が妻李雪主と共に「倉田通り住宅に入居した勤労者家庭」を訪問したことを報じた記事である。「親しみやすい指導者」

というイメージ作りの一環であると報道していた メディアが多かった。それもその通りだが、筆者 が注目した部分を翻訳し紹介する(以下は一部意 訳、中略も含む。句点は筆者による)。

「いつ入居したのか、生活で不便なことはないか、水はよく出ているかと、一つ一つお尋ねになった敬愛する元帥様(金正恩のこと)は洗面所にお立ち寄りになり、自ら蛇口をひねられた(8~9行目)」

この倉田通りは6月に竣工した平壌の最新高層住宅で、工事の段階から北朝鮮メディアでも度々報道された。その住宅の一室、平壌機械大学の教員シム・ドンスの住居を、最高指導者が訪れた。だが、その際にわざわざ蛇口までひねったことに筆者は違和感を覚えた。平壌の最新高層住宅で最高指導者が蛇口をひねったのである。しかも10階以上の高層階ではなく、3階で水が出るか確認したのである。低層階で水が出るということも、今の平壌では決して普通のことではないとも、今の平壌では決して普通のことではないとも、プを動かして上階に水を上げなければいけない。ならば、このエピソードは平壌の逼迫した電力事情を暗示しているのではないか。

しかも、記事では、金正恩夫妻が他にも2軒の住居を訪れていることを報じているのだが、それらも3階、2階であった。高層住宅であるにもかかわらず、なぜ高層階の住居は訪れなかったのか。低層階までしか水が来てなかったのか、憶測を呼ぶ記事だったと言える。

ちなみに、この倉田通り住宅の訪問に関しては、後日関連記事が出ている。9月15日付労働新聞は「喜びの頬笑み(기쁨의미소)」という題名で、金正恩がシム教員の住居を訪れた際の様子を再び報じたのだが、下記のような表現が出てくる。

「彼ら全員(シムー家のこと)の胸にさらに大きな衝撃の波が起こったのは、次の瞬間のことであった。敬愛する金正恩元帥様が、昇降機(エレベーターのこと)がちゃんと動いているのか、お尋ねになったのである(12行目)」

これに対する答えを見て見よう。

「時々、広場に出て行くおばあさん(おそら

く、シムの母)を通じて、昇降機がすいすいと動いていることをお知りになった敬愛する元帥様は、初めて心が軽くなられたかのように、それならよかったと陽の光のような頬笑みを浮かべられた(18~19行目)」

ちなみに、シムー家に「大きな衝撃の波が起こった」のは、金正恩がエレベーターの稼働状況について聞くことで、3階に住んでいる自分たちのみならず、高層階に住んでいる住民を思いやったからだと記事には書かれている。だが、これも裏を返せば、平壌の最新高層住宅でも、最高指導者はエレベーターがしっかり動いているか心配しなければいけないということを意味している。水が出ること、エレベーターが動くことは、北朝鮮が誇る首都平壌であっても決して日常の風景ではないのであろう。

また、9月22日付労働新聞も、金正恩が「能力拡張された平壌野菜科学研究所と平壌草花研究所」を視察したことを報じたが、この記事でも気になる部分が見受けられる。

「元帥様は温室の能力が拡張され、科学化されたことに合わせて、運営をうまくやらなければならないとおっしゃり、地熱、太陽熱、風力エネルギーを積極利用して、無暖房化を実現すれば、温室運営において原価を減らし、実利を保障できるとお教えになった(29~30行目)」

温室を温めるには、家庭で作った小規模なものであれば、ガスストーブや練炭コンロで事足りる。だが、この研究所の面積は「百数十へクタール」に及ぶ。広大な面積を持つ温室を温めるには、電力で暖房を稼働させるしかないと思われる。だが「地熱、太陽熱、風力エネルギー」の利用を金正恩は訴えている。金日成の遺体が保存されている錦繍山太陽宮殿の近くにこの温室はある。北朝鮮で最も重要な温室であるはずだが、そこにも電気を回すのは極力避けたいということなのか。同記事にも電気、電力という言葉は一言も出てこないが、電力不足を連想せざるを得ないのである。

ここで、北朝鮮の電力事情を見て行くと、火力 と水力で国の電力を賄っている。中でも、水力発



シム・ドンスー家を訪れた金正恩夫妻。 厳冬を前に、最 高指導者には、電力供給に一層尽力し、市民生活を守る という使命が課せられている。

労働新聞Web版、2012年9月5日

電に力を入れており、今年4月初頭には慈江道の 熙川発電所が竣工している。同発電所は、倉田通 りと同じく、建設段階から度々、北朝鮮メディア で報道されてきた。また、2011年に各地で公演 され、金正日も観覧した劇「今日を追憶せん」の 内容も発電所建設に関わるものであった。主人公 が、90年代後半の苦難の行軍の時期に、自分の 身を犠牲にして山間の水力発電所建設に献身する という内容である。

だが、倉田通りの住宅の水道、エレベーター事情、野菜・草花研究所の暖房事情を見て行くと、これら水力発電所の稼働状況も気にかかるところである。夏の旱魃、冬の河川の凍結は共に発電のための貯水量の不足に繋がる。また、送電設備の不備があれば十分に電力を供給することはできない。また、火力発電も稼働のためには重油と石炭が必要だが、それらが十分に輸入、供給されているのであろうか。北朝鮮の人々が、延吉の人々のように気兼ねせず電気が使えるようになるのはいつの日だろうか。日朝国交回復が実現した暁には、水力発電所建設で豊富な経験を持つ日本が協力する。そんな明日を思わずにはいられなかった。

※朝鮮民主主義人民共和国は北朝鮮と表記した。

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 博士後期課程 大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター 客員研究員 慶熙大学校附設国際地域研究院日本学研究所(韓国) 研究委員 首席研究員



「PIGS」呼称は不当? 南欧のんびり生活

―地域独立の声も高いが統合後退なさそう―

小野田明広 ● Onoda Akihiro 東アジア総合研究所副理事長

9月上旬にスペインのバルセロナから南フランスのプロバンス地方まで、10日間ほど列車とレンタカーを使って観光旅行してきた。ギリシャ債務危機に端を発するユーロ圏の動揺がスペインにも及んできただけに、ストライキなどの混乱を心配したが、鉄道はダイヤ通り順調に動き、外見的には社会の不安定さは感じられなかった。

2008年ごろから英米系の金融情報会社は、国家財政が脆弱で外部支援の緊急輸血をあおがないと瀕死の債務不履行に陥って世界市場を混乱させかねないとして、南欧諸国をひとくくりにして「PIGS(ブタども)」と侮蔑的に呼んできた。ポルトガル、イタリア(貯蓄率と財政規律が相対的に良好だとして、アイルランドを充てる向きもある)、ギリシャ、スペイン4カ国の英語の頭文字略語だ。

ギリシャは依然、厳しい緊縮財政が続く。しかし、スペイン東部カタルーニャから南仏まで地中海沿いを移動してみると、「プロバンスの12カ月」の紹介本で知られるような、のんびりした南欧的生活スタイルが崩れているようには思えなかった。金融取引にあくせくする市場関係者のやっかみが「PIGS」呼称を生んだのではないのか?

夏のバカンス・シーズンで大きな国際金融会議がなく市場も暇な時期だったためか、今回の旅行数カ月前に一時79円台まで進んだユーロ安・円高の為替レートも100円ちょっとの水準でずっと安定的に推移した。日本人旅行者としては期待ほどには安い買い物を欧州でできなかったわけだが、計算もしやすいし「まあ、こんなところかな」という印象だった。観光客向け売店でミネラルウォーターのペットボトルが日本円で400円程度。

逆に4年前のポルトガル旅行時には、1ユーロが 130~140円にもなっていた。「日本円で700円近 くもする!」と、空港内の売店でミネラルウォーター を買うのをためらうほどだった。

どこにも黄色と赤の旗

バルセロナは地中海に面したスペイン最大の貿

易港で、人口162万人と2番目に大きな都市だ。カタルーニャ地方の中心で、首都マドリードなど内陸部他地域とは一線を画し「われらはスペイン人にあらず」と独自性を誇る。鮮やかな黄色と赤みがかったオレンジ色の横縞が並ぶカタルーニャの旗が、市役所など公共の建物だけでなく、あちこちに飾られている。冬は季節風で寒いらしいが、まだ日中は30度を超す暑さで日差しも強く、遠くからもカタルーニャ旗が浮き立つように目を引く。

この旗は、異才の画家ダリの美術館があるフィゲーラスでも、至るところに飾られていた。ちょうど恒例の「ワイン祭り」の最中だった。

ワイングラス1個を10ユーロ出して買う。カタルーニャ各地の醸造所からの赤、白、発泡性のさまざまなワイン、つまみになるチーズやチョコレート菓子を並べたテントが20ほど、広く長い遊歩道の両側に並ぶ。午後7時をすぎても明るい路上には、犬連れの人、子どもの姿も多く、ゆったりした時間の流れだった。6枚つづりの「賞味券」を使い切って街灯がとももるころホテルに戻った。宴はまだまだ果てそうになかった(地図を見たら北海道南部の緯



(写真1) バルセロナシャドウ中央の遊歩道



(写真2)方々に公共レンタサイクル

度、日が長いのも当然だ)。

バルセロナでも、同じように車が往来する広い道路の中央部分を遊歩道にして、テント張りの出店がならぶ光景をよく見かけた。幅が広く、並木の木陰になって涼しい。自転車向けの走路も設けられていた。(写真1)。バルセロナの大通りは、パリやリスボンなどと同じように高さ制限を受けた歴史的建造物が軒を連ねているが、建物があまり高くなく、通りが一段と広いので、ずっと余裕を感じさせる。公共の貸し自転車が方々に置かれていた(写真2)。

実は日本人観光客には、バルセロナは南イタリアのナポリと並んで盗難で悪名高い場所だ。中級ホテルを利用したが、客室内に置かれていた案内に「外出する際は部屋の中の荷物にも鍵をかけることをお勧めします」と記されてあり、気を引き締めた。リュックを体の前に抱えて周囲に目を配ったが、物乞いも少なく特に怪しい集団もうろついていない。落ち着いた雰囲気の街だ。幸い、すりやひったくりの被害に遭わずに済んだ。

カタルーニャ地方を離れて1週間後、南仏旅行中に立ち読みした新聞で「中央からの独立」を叫ぶ大規模なデモがバルセロナであったことを知った。「150万人が集まったそうだよ」と同行の元テレビ・ジャーナリスト夫妻に伝えたら、まさか、と一笑された。「桁の読み間違いじゃないの。バルセロナ市のほぼ全人口だよ」と。

でも本当だった。中央政府がカタルーニャから多額の税収を吸い上げていくのに、財政危機に際して支援補助金を十分支給しないと抗議して、各地から結集したらしい。スペインでは住宅バブルの崩壊に伴う銀行危機のほか、財政危機に陥った地方政府が中央政府と激しい論争を続けている。バルセロナの象徴、聖家族教会のそばにある闘牛場は、スペイン全土とは別に闘牛禁止の条例ができたために門を閉ざしていた。独自性の強調だ。

でもファン・カルロス国王がスペインの一体性を訴え、カタルーニャ突出の動きに自制を求めた。地方が文化だけでなく財政面でも独自性を強調する「分散」の動きは、欧州共同体(EU)の「統合」が進むにつれて逆に目立っている側面がある。欧州委員会が位置しているベルギーでも、オランダ語圏とフランス語圏が角突き合わせ、やはり国王が統合性の維持を訴えている。

でも手放せないかユーロ

ユーロ圏の一部参加国が財政危機に陥って国際 市場の動揺を招いているが、EUの統合は一般国民 レベルでは後戻りしないようにみえる。 やはりユーロだけ持っていれば良いのは便利だし、国境を越える移動の自由はもう手放せないだろう。

フィゲーラスには、一般のスペイン国鉄駅から少し離れた場所に、フランスの高速鉄道TGVへと直結している新駅ができていた。海峡を結ぶトンネルで英仏両国は高速鉄道で結ばれ、英国はユーロ圏には入っていないがEUに加盟して久しい。

さて、地中海沿いの湿地地帯を高速鉄道で抜けてフランスへ。エクス・アン・プロバンス駅前でレンタカーを借りたが、ここで「変わらぬ欧州」に久しぶりに出遭った。正午をちょっと過ぎただけ、レンタカー会社はシャッター半開き状態のまま、奥のカウンターには男女数人の制服スタッフの姿が見える。「まあ無理かな」とは思ったが、東京からインターネットで予約した書類のプリントアウトを示しながら手続きしてくれないかと頼んでみる。スタッフたちは表の看板の方をさして、「午後2時からね」とだけ言うと、仲間たちとの談笑に戻った。

のんびりした生活を楽しむ―。言うは易く行うは難しい。少なくとも普段から、あくせく動き回っているのが当然だと思い込んでいる私たちには。

低い灌木の生えている丘陵部をドライブして着いた南仏リュベロン地方の清流が流れる小さな村。古道具屋のならぶ一角を過ぎたところに旧城館がある。中年のおばさんたちと、男女の若者が建物の中にはいっぱい。文化センターになっており、音楽教室が開かれていた(**写真3**)。

ちょうど南欧旅行を終えて日本に向け帰国する9月12日にオランダで下院議員選挙が行われた。欧州統合のさらなる推進に反対した野党が勝つのではとみられていたが、ユーロ圏の安定化対策に賛成する中道勢力が勝利して、統合反対派の勢いを食い止めた。ドイツ憲法裁判所が欧州安定メカニズム(ESM)への関与を合憲とし、欧州中央銀行のドラギ総裁が南欧諸国の国債買い入れの正当性を強調したのも、同じ日だった。



(写真3) 旧城館が音楽教室に

案内

第13回 東アジア国際シンポジウム

テーマ:朝鮮半島の非核化と 日朝関係の展望と課題

昨年末に突然死去した金正日総書記に代わって北朝鮮最高指導者となった金正恩第1書記は、祖父金日成主席の「主体」思想、父金正日総書記の「先軍」軍事優先路線を引き継ぎ、若手指導者としてのイメージづくりを国内で進めながら、「生活向上」の経済優先路線に力を入れています。今後、どんな外交・政治、経済政策を打ち出すのかが関心の的です。

北朝鮮と緊密な協力関係にある中国は、金正恩第1書記を支える張成沢国防委員会副委員長の訪問を受けて共同開発事業の推進を約束すると同時に、従来から求めてきた「改革開放」の行方を見守っています。また米朝接触は、金正恩第1書記時代に入って間もなく北朝鮮の核施設への国際機関係官の立ち入りを含む米朝合意の形となって発表され、国際社会を驚かせました。ミサイル発射で合意は「塩漬け」になっていますが、今後の動向次第で再び米朝間や、中国がホスト国である6カ国協議の再開へつながる可能性があります。また北朝鮮は、戦時中に日本に帰還する途中に死亡した日本人の遺骨収に人道的名目で協力する用意を示し、両国政府承認の下で日朝赤十字会談が始まり、政府間協議も動き出しました。その半面、東アジア地域では、ロシアのメドベージェフ首相の国後島再訪、韓国の李明博大統領の竹島への初訪問、尖閣諸島をめぐる日中摩擦など、島々の領有権をめぐる問題が、過去にとらわれがちな負の連鎖を国民の中に広げつつあります。

中国の共産党総書記、米国大統領、韓国大統領が、今年年末までの選挙や党大会で決まる予定で、来年には新たなトップ同士が本格的に意見調整に臨むことになります。このような東アジアの激動の中で、関連諸国の民間代表が集まり冒頭テーマを歴史的な枠組みで位置付け、忌憚ない論議を交わすことは、相互理解の増進と各国地域の友好親善を図る上で極めて有意義であり、東アジアの平和と共存共栄の世論形成に貢献することになります。どうか、ふるってご参加ください。討議終了後に懇親会も予定しております(会費別途)。

日時:11月2日(金) 午前9時受付 午前10時-午後5時30分

会場: 学士会館 東京都千代田区神田錦町3-28 電話03-3292-5936

会費:5000円(資料代を含む)

第1セッションテーマ【金正恩体制と朝鮮半島非核化の展望】

コーディネーター:小野田明広(東アジア総合研究所副理事長)

第2セッションテーマ【北朝鮮経済の現状と国際協力の展望】

コーディネーター:平川 均(東アジア総合研究所所長、名古屋大学教授)

主催:東アジア総合研究所(理事長 姜英之) 後援:東芝国際交流財団

東京都港区新橋 5-8-5 高島ビル 3 階 電話 03-6809-2125 FAX 03-6809-2126

申込方法:氏名、所属、住所、電話、メールアドレスを明記しFAXしてください



北朝鮮と中国

-打算でつながる同盟国は衝突するか

著 者:五味洋治

出版社:筑摩書房ちくま新書

2012年9月発刊

著者は東京新聞の編集委員。金正日総書記死去 後の昨年1月に、この北朝鮮トップの長男と交換 したメール内容を「父・金正日と私―金正男独占 告白」で公表して話題を呼んだ。

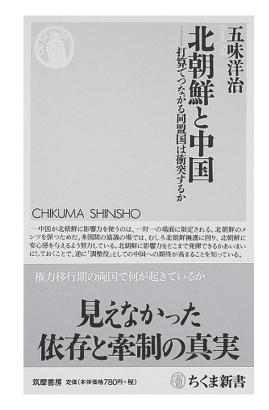
本研究所の北朝鮮問題緊急連続セミナーでも、 2010年10月に講演していただいた(本誌2010 年11月No167号を参照)。

本書は、韓国、中国、米国の各種資料や証言を 手堅くまとめ、依存と牽制関係にある中国と北朝 鮮関係の推移と今後の展望を述べている。

第1章で要人死去や核実験などを相互に通知し 合う特殊関係に触れ、2009年の北朝鮮による第2 回核実験後を中国紙「環球時報」が批判、中国人 作家による北朝鮮訪問記を中国当局が発禁処分と し事件に言及、北朝鮮との特殊感情はもはやない とする中国の若い世代の言葉で締めくくっている。

第2章は新しい金正恩体制を支える北朝鮮要人 群の紹介が中心。第3章は北朝鮮の「核外交」の 推移と中朝間の相互警戒心に触れる。第4章は食 糧とエネルギー協力で、2010年の著書「中国は 北朝鮮をとめられるか」(晩謦社)を詳述した。

第5章は北朝鮮の経済改革(と失敗)や中国の 支援方針を説明する。第6章で安全保障問題、第



7章で日本の対応に言及。日本人妻、よど号犯人 にも触れ、北朝鮮側の主張も紹介しながら、「日 朝平壌宣言」を基礎に、世代交代を好機として関 係改善を図る動きを起こすよう呼び掛けている。

最近の中朝関係を中心として北東アジアの動き を概観するハンドブック的な好著だと言える。

【短信】-

北朝鮮の基本文献まで「没収」する日本税関

週刊・東洋経済の10月6日号に同誌の福田恵介記者が「北朝鮮の今―新指導体制で変わ る平壌 | という訪問記を書いている。買って持ち帰ってきた「朝鮮中央年韓 | など北朝鮮を 知る基本文献数十冊が、帰国時に日本の税関で「没収」されてしまったそうだ(79ページ の囲み記事)。経済産業省の輸出入禁止措置が根拠だったという。

(編集部)



編集後記

国家戦略なき政策論に思う

民主党代表選で野田佳彦現総理が再選され、自民党総 裁選では安倍晋三氏が選ばれた。候補たちの主張は国家 の行く末を深く考えた戦略というより、総選挙への政局を 睨んだ意見が多かった。

かねがね私は、国家として統一された戦略なき政策は危 ういと思っている。

かつて日本は明治政府が太政官制度を採用して権限を 集中した後、徐々に政治体制を整えて明治18年に内閣制 度を創設、同22年に大日本帝国憲法を発布し国家体制を 固めた。だが各行政府、行政府の執行権と陸海軍部の統 帥権の角逐により国家の統一戦略を創造できずに禍根を 残した。第2次世界大戦後、新憲法で議院内閣制を採り、 内閣総理大臣の下に省庁大臣がいる。だが全般を束ねる 組織官庁は存在しない。ある意味それに近いのが内閣官 房であり、いわゆる戦略局であるはずだが、国家国民のた め時空を超え根本的視点から論を展開しているかというと、 ほぼ機能していないのも同然だ。

戦前、日本の陸軍は陸軍の、海軍は海軍の戦略論を展 開した。思想家丸山眞男流に言えば「たこつぼ型文化」で 視野狭窄に陥っていたといえよう。自己組織の発展に努力 しても、結果的に国家国民のためにはならない。戦後の各 省庁もそうだ。縦割りの戦略はあるが、とても国家戦略と は言えぬ。

最近戦略的互恵関係という語句が頻繁に出てくる。まさ に過去の教訓を糧とし、関係国との付き合いでも決してお もねらず中長期的に多様な要因を冷静に考察し、内閣の 総力を挙げてわが国独自の戦略に適った政策を採用する ことを望みたい。 (今)

「運命」の不思議

最近、感動的な話を聞いた。昔からよく知って いる男から聞いた話だ。僕と同年の彼が出身大 学のクラブOB会に出席したことから、"奇跡"は

彼は会場で、ある後輩から同期生の就職を頼 まれたという。この同期生とは没交渉で、大学 時代に彼が目をかけていた女性だった。体の弱 い彼女が肉体的にきつい仕事を続けている。で ももう限界なので、何とか負担の少ない職がな いでしょうか、という頼みだったそうだ。

彼はさっそく職探しに当たった。人脈をつてに 八方手を尽くしたが、結局、不景気の厚い壁に は勝てなかったようだ。いい線までいくのに、最 後は年齢制限で駄目だったらしい。しかし、彼は めげなかった。それどころか、もっと大きな希望 が沸き上がってきたと述懐する。

「現在ある彼女を丸ごと受け入れて、これから の人生を助け合いながら共に歩んでいきたい!」 この言葉が、心に深く残って離れない。

彼はこうも言っていた。卒業後46年を経て一 緒になれたのは、これはもう運命としか考えら れない、と。①いつもは出ないOB会に出た②滅 多に出ない当の後輩も出席した③この後輩が彼 女の就職を彼に頼んだ4二人とも互いに好意を 持っていた⑤たまたま二人とも独身だった—。こ れらの1つでも欠けていたら、彼女とめぐり会う ことはあり得なかった、と彼は確かに思っている。

(清)

会員の申し込み

◎会員(年間)

《個人会員》 1口5千円 《法人·団体会員》 1口5万円

◎特典

会員は定期刊行物「東アジアレ ビュー」の配布を受け、その他の 刊行物について特別割引、当研究 所が開催するシンポジウム・セミ ナー参加、また委託調査事業にお いて優遇を受けることができます。

◎会員の申し込みは、氏名、住所、 連絡先の電話・メールアドレスを ファクスでお送りください。

2012年10月号

第22巻・第9号・通巻189号 2012年10月1日発行

発行人 姜 英之 編集人平川均 編集主幹根津清

小野田明広・長瀬誠・田村秀男・西和久・朝倉堅五・前田幹博・ 李鋼哲・李燦雨・金丸知好・和仁廉夫・劉鋒・斎藤諭

編集スタッフ

橋本みゆき・堤一直

発行所 一般財団法人 東アジア総合研究所

発売 株式会社AIB

〒105-0004 東京都港区新橋5-8-5 高島ビル3F TEL:03-6809-2125 FAX:03-6809-2126 http://www.eari.or.jp/

印刷·製本 株式会社 東邦